

健康を守るということ

途上国の健康問題

かぜをひいたり、おなかをこわしたりしたとき、日本だったらお医者さんに行けばなおるといふ安心感がありますね。でも、世界には、日本ではなおせる病気でも死んでしまう人がたくさんいます。なぜだと思いますか？途上国の病気と健康について、アフリカのとある国に住むティナ（七歳）の家族を通して紹介します（全四回）。準備はいいかな？ティナの住む世界へ行ってみよう！

11月、12月のテーマ 健康を守るということ	
1時間目	途上国の健康問題
2時間目	途上国の医療の今
3時間目	予防の取り組み
4時間目	健康を守るために

「病院までの道のり」の巻

①ティナの家族は、家のすぐとなりにある、ため池にたよって生活しています。飲み水、体を洗う水、すべてが池の水のおかげ。でも、この池がティナの家族にわざわざをもたらすこととなります。

②ある日、突然ティナの弟フランシス（三歳）は下痢になり、高熱を出しました。途上国では、そうかんたんには病院へ行けません。病院までの道のりは遠く、お金もかかるので、ようすを見るしかないのです。

③三日たっても熱が下がりません。お母さんとティナは、歩いて三時間はなれた病院まで行く決心をします。

途上国には、病院がまだあまりありません。ティナの家族のように一大決心をしないと診察を受けられない人がたくさんいます。

④三時間歩いて、やっとのことでたどりついた病院。でも、そこには、長い長い行列が……。フランシスは、何の病気にかかっているのでしょうか？お医者さんに診察してもらえるのでしょうか？

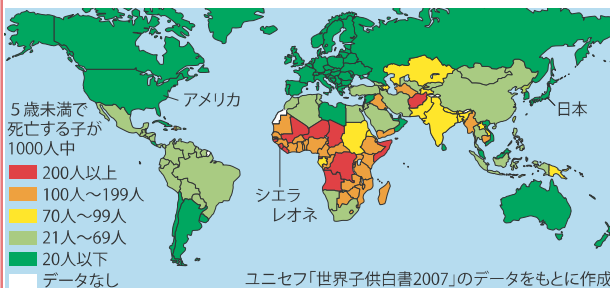
考えてみよう

5歳の誕生日を迎えられない子

5歳になる前に亡くなる子どもは、日本では1000人中4人です（ユニセフ「世界子供白書2007」から）。それでは、質問。次の国で亡くなる子どもの数は、日本より多いと思う？少ないと思う？

- ①アメリカ ②シエラレオネ（アフリカ）

答えは、下を見てね。



上の地図は、5歳になる前に亡くなる子が1000人中何人いるかを色分けした地図です。日本は20人以下なので濃い緑色ですが、オレンジ色（100人～199人）、赤（200人以上）の国もたくさんあることがわかりますね。

なぜだと思いますか？大きな理由の1つとして、医療のしくみが整っていないことがあげられます。多くの途上国では、医師の免許を持っていなかったり、治療する技術が足りなかったりするお医者さんが多いのです。それに、病院などの施設が整っていないこともあるので、病気がなおらずに亡くなってしまうという現実があるのです。

①日本より多い(1000人中7人が5歳になる前に死亡)
②日本より少ない(1000人中282人が5歳になる前に死亡)



健康を守るということ

途上国の医療の今

日本とちがって、アフリカに住むティナの家族は、病院へ行くにもひと苦労。世界では、片道何時間も歩かないと病院に行けなかったり、病院に着いてもお医者さんの数が足りなくてすぐにみてもらえなかったりして、手おくれになることも多いのです。病院を建てるにはお金が、お医者さんを育てるには教育が必要。どちらも長い時間がかかります。さて、ティナの弟のフランシスは、どんな病気にかかっていたのでしょうか？

11月、12月のテーマ 健康を守るということ	
1時間目	途上国の健康問題
2時間目	途上国の医療の今
3時間目	予防の取り組み
4時間目	健康を守るために

「先生、弟の病気は？」の巻

- ① (前回のあらすじ) ティナたちは、病気にかかった弟のフランシスを病院まで三時間かけて連れてきました。でもそこにあったのは古びた病院と、長い長い患者の列だったのです。
- ② 長い時間待って、やっとお医者さんにみてもらえることに。途上国の病院にはかぎられた数のお医者さんしかおらず、よい機器もないので、最低限の検査しかできません。当然、はっきりとした診断もできなくなってしまうのです。
- ③ 検査結果が分からない場合、多くは身近な病気であるマラリアと診断されることがあります。フランシスは、マラリアと赤痢にかかっていると診断されました。どちらの病気も、ティナの家のため池と関係の深い病気だったのです。
- ④ 薬をもらってひと安心。また、三時間歩き、家にたどり着いたのは真夜中でした。お母さんは、「毎回これではきつい……。なんとか病気を防ぐ方法かんがはないかしら？」と考えました。

赤痢ってどんな病気？

赤痢は、腹痛、発熱、下痢が主な症状で、口から赤痢菌という細菌が入ることによって感染する病気です。戦後すぐの日本では年間10万人以上の人々が赤痢にかかり、2万人近くが亡くなったのですが、今では患者数は年間1000人ほどで、亡くなる人はほとんどいなくなりました。これはお医者さんや病院の数が多くなった、よい薬が手に入るようになったという以外にも理由があります。何だと思いませんか？

それは、学校で給食を食べる前にせっけんで手を洗おうと教えられているように、日本では「予防」という考え方が広まってきたからでもあるのです。予防をきちんとしていれば、治療のための時間やお金を使わずに健康に過ごせるのです。

考えてみよう

Q (質問) 日本では人口1万人あたり20人のお医者さんがいます。アフリカのタンザニアでは、人口1万人あたり何人のお医者さんがいると思いますか？

- ①10人 ②3人 ③1人以下

ヒント タンザニアには人口1000人に対して病院のベッド数は1つしかないけれど、日本は15近くあります。



保健医療

もっと知りたい!



水をきれいにするちょっとした工夫

途上国の井戸のない地域では、川や池に水をくみに行かなくてはなりません。でも、どろや砂で水がにごることがあります。にごった水をきれいにする方法の一つが「ペットボトル浄水装置」(写真、伊藤加奈子撮影)。ペットボトル二本とトイレトペーパーだけでかんたんに作れます。

東京都の保健所の職員だった人見達雄さんが、災害で水道が止まっても飲み水を手に入れられるようにと考えました。それが応用されて、現在は途上国の青年海外協力隊が使っています。

身近なものも、知恵をしぼって工夫することで、命を守ることにつながるのですね! (この装置に殺菌力はありません。そのまま飲めない水もあるので、注意してください)



けんこう まも 健康を守るということ

よぼう とく 予防の取り組み

一人の子どもが生きるために、一日にどのくらいの量の水が必要か分かるかな（答えは下に）。多くの途上国には水道がなく、人々は何キロも離れた井戸に水をくみに行ったり、よごれたため池の水を使ったりしています。不衛生な水のせいで赤痢にかかり、下痢などが原因で多くの子どもたちが命を落としているのです。今回は予防の大切さについて考えていきましょう。

11月、12月のテーマ けんこう まも 健康を守るということ	
1時間目	途上国の健康問題
2時間目	途上国の医療の今
3時間目	予防の取り組み
4時間目	健康を守るために

「知らないって、コワイ」の巻

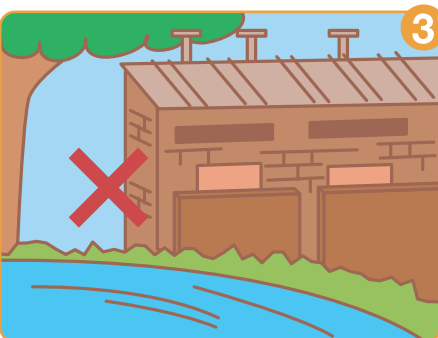
①赤痢とマラリアにかかり家で休んでいるフランシス。お母さんは、お医者さんから、赤痢はため池の水からばい菌がうつったことなどが原因だと聞きましたが、何をどう気をつければいいのか分かりません。



②ため池には、ばい菌などがうようよ。飲み水や食事に使う水は、安全な井戸か、ためた雨水を火でわかしてから使うのが大切ですが、お母さんはこのことも知りません。のどがかわいたティナは、ため池の水を直接飲んじゃった！



③水をくむ場所の近くにトイレがあると、ばい菌がため池にまで流れてきます。これを防ぐため、トイレは水をくむ場所からはなれたところにつくるのが大切。このことも知りません。ティナはトイレから出た後に手を洗わなかったよ！



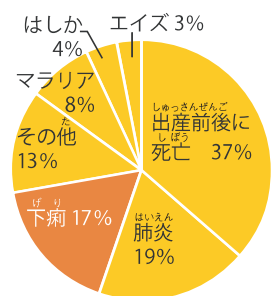
④外遊びをして家に帰ってきたティナ。ちょっと待って！ここにも危険があります。「外から帰ってきたら手を洗う。身の回りは清潔に」。自分や家族、友だちの健康を守るための基本も、ティナたちは知りません。



ちょっと待って！ここにも危険があります。「外から帰ってきたら手を洗う。身の回りは清潔に」。自分や家族、友だちの健康を守るための基本も、ティナたちは知りません。

病気の予防、知ることが大切！

右のグラフを見てみましょう。途上国で5歳になる前に子どもたちが亡くなる主な原因です（世界保健機関、2006年）。赤痢による下痢などで命を落とす子が17%もいます。大きな理由は、きれいな水がないことですが、もう1つにはティナたちのように病気の予防法を知らないことにもあります。



小点数以下四捨五入のため
合計は一〇〇になりません

みなさんは、授業中に気分が悪くなったらどうしますか？ たいていは保健室の先生にみてもらいますよね。でも、途上国の学校では、保健室があることも、みんなの健康管理をしてくれる養護の先生がいることもまれです。そのほか、栄養バランスのとれた給食や身体検査、予防接種、歯科検診など、日本の学校では当たり前のことも、世界的にみるとめずらしいのです。さらには、きれいなトイレ、蛇口をひねると出てくる水もありません。きれいな水でトイレの後や給食前にせっけんて手を洗うことは、健康な生活を送るのに必要ですが、途上国では学校や家で学ぶ機会ほとんどないのです。

井戸で水をくむブルキナ
ファソの女性



けんこう まも 健康を守るということ

けんこう まも 健康を守るために

ティナの弟フランシスは、だんだんと元気になってきました。前回、下痢にならないためには、水をわかして飲んだり、手を洗ったりすることが大切だと分かりましたね。今週は、そんなティナたちの村にやってきた青年海外協力隊のお姉さんのお話。お姉さんは、日本からやってきたボランティアです。国によって、わたしたちの健康をおびやかす病気はちがいます。でも、いつも健康でいたいという気持ちはみんないっしょだよ。

11月、12月のテーマ
けんこう まも
健康を守るということ

1時間目	途上国の健康問題
2時間目	途上国の医療の今
3時間目	予防の取り組み
4時間目	けんこう まも 健康を守るために

「明るい未来に向かって」の巻

①青年海外協力隊のお姉さんが、子どもやお母さんたちを集めて、マラリアの話をしています。ハマダラカという蚊にさされることでうつる病気なので、蚊帳の中に入って寝ることが大切なのです。

②次の日、お姉さんは井戸の前にみんなを集め、きれいな水を使う大切さについて教えました。飲む水は火でわかして必ず殺菌すること、トイレは生活に使う水をためる場所から離れた場所を作ることを呼びかけています。

③井戸の前でのお話が終わると、今度は、ボロボロになった病院の建て直しを始めました。村に病院ができれば、三時間歩いて遠くの病院に行く必要もありません。ティナもフランシスも積極的に手伝っています。

④また日がのぼり、ティナの日が始まります。ティナは今、勉強しています。フランシスの病気をなおしてもらって以来、お医者さんになりたいと思っています。新しくできた村の病院で、病気の人をなおしたいんです。



蚊帳ってなあに？



みなさんは蚊帳って見たことがありますか？寝るときなどに蚊が入ってこないようにするおおいです。上の写真（ニジェールで撮影）のように、細かい網の布を天井から床までつるして使います。日本でも、むかしは蚊帳を使っていたんですよ。今では、網戸がその役目をしています。

考えてみよう

みなさんは、健康でいることが当たり前のことだと思いませんか？ときどきかぜなどをひくと、改めて健康のありがたさを感じますよね。

健康は当たり前のことではないし、今まで見てきたように、世界には病気になっても、病院が遠かったり、薬が手に入らなかったりして、病気をなおせない人もたくさんいます。

そんな世界を変えるために、今すぐできることは少ないかもしれませんが、お医者さんをめざしてがんばっているティナのように、みなさんも、自分の健康を大事にしながら、よりよい明日をめざして、自分たちにできることを考えてみてください。

もっと知りたい!



びょう こ シャーガス病とホンジュラスの子ども

「わー、ゴキブリみたい」「この虫よく家の中で見るよ！」中央アメリカ・ホンジュラスのある小学校の教室では、国語や算数などの授業のほかに、この地域で広がっている「シャーガス病」についての授業が行われています（写真）。シャーガス病は、主に吸血性カメムシ（サシガメ：イラスト）という虫にさされることによってうつる病気で、中南米で多く発生しています。かぜに似た症状が出るがありますが、気づかずに放っておくと治療薬がききにくくなり、なおすのが難しくなってしまいます。



小学校ではシャーガス病をテーマにした作文コンクールやサシガメのぬり絵、劇など、子どもたちが楽しみにしているイベントがたくさん行われています。とてもゆかいな「シャーガス病の歌」もあって、地元の子どもたちに人気なんです。

しょうがつ お正月スペシャル

せ かい くに しんねん 世界の国の新年は？

二〇〇八年まであと数日。みなさんのあたらとし家では、どのように新しい年をむかえますか？ 今週は、世界の子もたちの新年の過ごし方を紹介します。みんなにとって、よい年がやってきますように！！



パプアニューギニア

クリスマスが節目

クリスマスが一番の楽しみ。ほくたちの村では年齢を聞かれると、クリスマスの数で答えるの。3歳の子は、「年齢は3クリスマスです」って言うよ。1月1日になったら、教会の鐘を鳴らしたりして、みんなで騒ぐんだ！



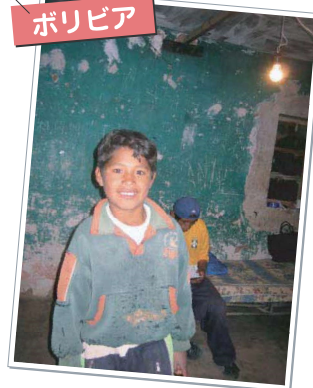
ナミビア

うた 歌いながら村を回る

12月31日からみんなで楽しく歌いながら、村を歩き回るのよ。おうちを訪ねて歌うと、お米やお砂糖をもらえるの！そして1月1日の朝まで歌ったりおどったりしながら、年を越します。

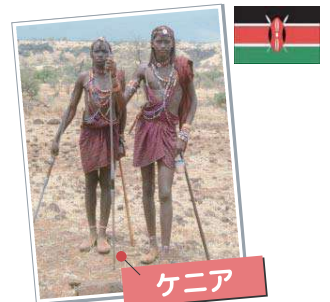


ボリビア



探してみよう
新年の過ごし方を紹介した七つの国の位置を、地図帳などで調べてみましょう。左の地図の①～⑦は、それぞれの国が分かるかな？

ムスリム②仏教③④⑤⑥キリスト教⑦国中⑧
⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲



ケニア

ねんまつ 年末はマサイの踊りを

ほくたちマサイ族にとっては、12月の年末がとても大事。親せきが集まって、無事に過ぎた1年とこれから来る年を祝います。飼っている牛をバーベキューにして、ミルクと牛の血を混ぜたものなどを食べるんだ。食事の後は、夕方まで伝統的なマサイダンスをおどるよ。

とし 年 数の数だけブドウを食べる

ほくの家では「フリカセ」というごちそうを作ります。鶏肉、豚肉、牛肉を全部入れて、塩こしょうとスパイスで味つけする、とてもおいしい料理だよ。そして新年が明けたら、ブドウの粒を年の数だけ食べるんだ。願いがあるときは、空に近いところで願いをかけるといんだって！ほくは来年たくさん旅行に行きたいから、スーツケースを持って屋上にかけ上がるつもりだよ。ほくの願い、かなうかな？



ラオス

みず 水をかけて涼しい！

ラオスやおとなりのタイなどの国では、日本とちがう暦で新年を祝うので、4月がお正月。水かけ祭りといって、おたがいに水をかけ合いお祝いします。道行く人にも水をかけるんだよ（写真）。4月のラオスはとても暑いので、水が冷たくて気持ちいいんだ！



カラフルな獅子舞

中国では、昔からある旧暦を使うので、1月1日から2月にかけて新年を祝います。「春節」といって、来年は2月7日。街の中をカラフルな獅子舞がねり歩いたり、爆竹を鳴らしたりと、とてもにぎやか！子どもたちはおこづかいをもらいに、おうちなどを回ります。



アフガニスタン

08年は新年が2回！

イスラム教徒が多いわたしたちの国の1年は、みなさんの1年より11日ほど少ない354日なので、年明けの日が毎年ちがいます。西暦2008年には1月と12月の2回新年がやって来るとです。

ちゅうなんべい たんけん 中南米を探検！

はなし ボリビアのお話

中南米の国々は、日本から見ると丸い地球の反対側にあります。中央アメリカ、南アメリカ、カリブ海の島々に全部で三十四の国と地域があり、「中南米」とか「ラテンアメリカ」と呼びます。中南米シリーズの一回目は、南アメリカ・ボリビアのくらしをのぞいてみましょう。

今月のテーマ ちゅうなんべい たんけん 中南米を探検！

1時間目	ボリビアのお話
2時間目	ブラジルに渡った日本人
3時間目	バイオディーゼルのって何？
4時間目	パナマ運河のお話

高い高あ〜い ボリビアクイズ



Q1 ボリビアの大統領は、標高5000メートルを超える高地＝写真左＝であるスポーツをしました。それは何？
①野球
②サッカー
③バレーボール

Q2 標高3810メートルと、世界一高い場所にあることで有名な湖の名前は？

①ティティカカ湖 ②パナマ湖 ③チチハハ湖

Q3 エルアルト国際空港＝写真下＝があるのは、標高4000メートル超。世界一高い場所にある空港です。ここで、無料で使える設備は？



①寝袋 ②テント
③酸素ボンベ

①の答え ①ボリビアの大統領は、2007年6月、国際サッカー連盟が標高2500メートル以上の高地で国際試合を禁止したことに抗議し、標高5000メートルを超える地点にあるサッカー場で試合をしました。（禁止は、空気が薄い高地でははげしい運動が健康に害をおよぼす可能性があるからです。）
②の答え ②ボリビアとペルーの2か国にまたがる湖。日本は、チチカカ湖で、ナスを育てる技術を教えようとしてきました。
③の答え ③ボリビアの空の玄関。酸素が薄いので、気分が悪くなるのを防ぐために無料で使える酸素ボンベがあります。

せかいいちたか ばしょに せんと 世界一高い場所に首都があるよ

ボリビアは、南アメリカ大陸のちょうどまんなかであり、海に接していない国です。首都のラパスは、スペイン語で「平和」という意味。世界一標高の高いところにある首都として有名です。標高約三六〇〇メートル。なんと、富士山の頂上よりも高いところで人々は生活しているのです！

せう けいしよは じぶんたちで かい 教科書は自分たちで買う

ほとんどの学校は、朝の七時過ぎから午後一時まで。子どもたちは、学校で使う教科書やノートなどは街の本屋さんへ行き、自分たちで買わなくてははいけません。教科書はとても高価なので、お兄ちゃん、お姉ちゃんが使っていた教科書をもう一度使うこともあります。

学校には売店があり、おなかがいいたらサンドイッチやジュースを買って食べる子もいます。昼食はおうちに帰って、家族そろって食べます。お父さんも仕事の昼休みに帰ってきます。

ひんふの ちがいは げんじつ 貧富の差が大きい

ボリビアは貧富の差がとてもはげしい国です。まずしくて学校に通えず、家族を助けるために街でくつみがきをしたり、お菓子を売ったりして働く子どももたくさんいます。

ボリビア政府は、日本や国際機関や民間の団体などと協力して、すべての子どもたちが教育を受けられるように、さまざまな活動をしています。学費を出したり、学校で朝食や学用品を配るなどしたりしています。



ボリビアの子供たち

さがしてみよう

下の地図のボリビアに色をぬりましょう。

ボリビア

人口 962万人
首都 ラパス
言語 スペイン語など
面積 110万平方キロ
(日本の約3倍)
国旗



もっと 知りたい!



アロス
コンレチェ

お米で作ったあま〜いお菓子はいかが

中南米で愛されているデザート「アロスコンレチェ」を紹介합니다。スペイン語で「アロス」は米、「レチェ」は牛乳、「コン」は「いっしょに」という意味です。

材料 米2分の1カップ、牛乳500ミリリットル、砂糖50グラム、シナモンスティック1本半、シナモンパウダー少々

作り方

- ①なべにたっぷりのお湯をわかし、米を入れ中火で十五分ほど煮る。
- ②米にしんが少し残っている程度でざるにあげ、水気を切る。
- ③牛乳とシナモンスティックをなべに入れ、弱火にかける。温まってきたところで米を加え、トロトロになるまで弱火で煮こむ。こげないように、ときどき木べらなどで全体をまぜる。
- ④少しプクプクと煮立ってきたら、砂糖を加えてまぜる。水気がなくなったら火を止める。
- ⑤冷めたら小さなカップやお皿にうつし、冷蔵庫で冷やす。
- ⑥食べる前にシナモンパウダーをかけてめしあがれ！

中南米を探検！

ブラジルに渡った日本人

今まで住んでいた土地から別の土地に移り住むことを、「移住」と言います。日本人はずっとむかしから、アメリカのハワイや南アメリカのブラジルなどに海外移住してきました。今回は、ブラジルへ移住した日本人について、学びましょう。

今月のテーマ 中南米を探検！	
1時間目	ボリビアのお話
2時間目	ブラジルに渡った日本人
3時間目	バイオディーゼルのって何？
4時間目	パナマ運河のお話

移住はいつから始まったの？

ブラジルは、一八八九年（明治二十二年）に共和国となった新しい国です。ブラジルでは、イタリアを中心とするヨーロッパの国々から移民を受け入れました。コーヒー農園の景気がよく、やがてアジアからの移民も受け入れるようになりました。

ブラジルへ向けて、初めて日本人の移民を乗せた船「笠戸丸」が兵庫県の神戸港を出港したのは、一九〇八年（明治四十一年）。今年でちょうど、日本がブラジルへの移住を始めてから百周年をむかえます。

約百五十万人の日系社会

夢をいだいて海をわたった移住者たちでしたが、コーヒー農園での暮らしは想像以上に厳しいものでした。でも、しんぼう強く働き、ブラジル社会の役に立ちました。

ブラジルには「ジャポネーズ・ガラチード（ポルトガル語で、信頼できる日本人）」という言葉があります。移民の子孫は約百五十万人。その多くが、政治経済医学、芸術などさまざまな分野で活躍しています。

多文化の人々が仲良く暮らすには

現在の日本にも、仕事などで海外から来ている人がたくさんいます。こうした人たちも、ブラジルにわたった日本人移民が感じたような不安や問題をかかえているかもしれません。身近な外国人の人たちのために、わたしたちもなにかできたらすてきですね。

横浜市中区のJICA横浜海外移住資料館（☎045・663・3257）では、日本人の海外移住の歴史とその子孫である日系人の暮らしについて展示しています。移民カルタや紙芝居もあって、楽しみながら理解を深めることができます。



日系人の暮らしが分かる紙芝居



調べてみよう

下の地図のブラジルに色をぬりましょう。



日本人移民の歴史を伝えるJICA横浜海外移住資料館の展示（右の紙芝居も）

ブラジル

人口 1億8390万人
 首都 ブラジリア
 言語 ポルトガル語
 面積 851万平方キロ
 （日本の約23倍）
 国旗



中南米の生き物① 世界最大のカブトムシ

中南米には、世界のほかの地域には見られない、めずらしい昆虫や生き物たちがたくさんすんでいます。あざやかな色のチョウ、巨大なカブトムシなどが、広い熱帯雨林を中心に見られます。三回にわたって紹介します。

今週は、日本の子どもたちにも人気のヘラクレスオオカブト。中央アメリカの森林やカリブ海の島々、南アメリカのアマゾンなどにいます。

世界最大のカブトムシとして知られています。大きくなると、全長一八センチほどにもなるそうです。雄にはりっぱな角が二つあります。けんかのときは角で相手を押ししたり、はさんで投げ飛ばしたりします。雌には、角がありません。

中南米の国々でも人気者のようで、切手などにもとりあげられています。

中南米を探検！

バイオディーゼルのって何？

先週紹介したブラジルは、コーヒーなどの農作物で有名な国ですが、せまい農地しか持たず、まずしい生活から抜け出せない農民がたくさんいます。今回は、バイオディーゼルと呼ばれる燃料のもとになる作物の栽培を通して、まずしい人々の暮らしをよくしようとしているブラジル政府の取り組みを紹介します。

今月のテーマ 中南米を探検！	
1時間目	ボリビアのお話
2時間目	ブラジルに渡った日本人
3時間目	バイオディーゼルのって何？
4時間目	パナマ運河のお話

植物からできた燃料だよ

バイオディーゼルのとは、農作物から作られた燃料。車を走らせる軽油のかわりになります。ブラジルでは主に大豆、ヒマ、ジャトロファの実などから作ります。ほかにも、菜種やヤシの実などさまざまな植物も原料になります。日本では使い終わった天ぷら油なども使っているんですよ。ガソリンのかわりになる燃料はバイオエタノールといって、トウモロコシやサトウキビなどが原料です。バイオディーゼルとバイオエタノールをあわせて、バイオ燃料といえます。

どうして環境にやさしいの？

軽油やガソリンのかわりに、環境にやさしいといわれるバイオ燃料を使う動きが広がってきています。二酸化炭素(CO₂)などの温室効果ガスが出る量を減らせて、地球温暖化を防ぐことに役立つと考えられているからです。

バイオ燃料で車を走らせてもCO₂は出ます。でも、原料の植物は空気中のCO₂を吸って育ちます。吸った分を燃料として出すから、量が増えたことにはならないと考えられているのです。

まずしい農家を助けよう

ブラジル政府は、二〇〇八年から二%、一三年から五%バイオディーゼルの軽油に混ぜて売ることになりました。この法律のおかげで、まずしく小規模な農家の人たちも、バイオディーゼルの原料を作ったりしを支えることができるようになります。

また、農民から原料を買ってバイオディーゼルのを作っている会社の人たちが、少しでも高い値段で買ったり、農家の人たちに栽培法を教えたりすると、国から税金を減らしてもらえたりも作りました。

これらの取り組みが始まる前は、例えばヒマの価格は不安定で、農家の人たちは日本円で一キロあたり約十三円で売っていました。でも、二〇〇七年は約三十七円と、以前より高く売られています(ブラジル農地改革省調べ)。

農作物がバイオ燃料用に回されることで、例えば大豆など食料の値段が上がるなどの問題もあります。ブラジル政府は、使われていない農地を使って、食料にはならないジャトロファなどの栽培に力を入れています。



【ヒマ】 原産地はアフリカの熱帯地域。種子から油がとれ、葉や茎の真の原料などに使われます。食用には適していません。



もっと知りたい!

中南米の生き物② 空飛ぶ宝石モルフォチョウ

南アメリカ・アマゾン川流域の熱帯雨林には、この地域でしか見られないめずらしいチョウがたくさんいます。その中でも特に有名なのが、モルフォチョウ。羽の長さは八センチほど。青くキラキラとかがやき、「空飛ぶ宝石」とも呼ばれます。モルフォチョウの羽の表面はたんぱく質と空気の層が何重にも重なり、ここに光が当たるとあざやかにかがやくそうです。そのため色あせることがなく、羽を並べて工芸品などのかざりとして使うこともあります。

中南米を探検！

パナマ運河のお話

みなさんのまわりにある物は、どのように運ばれてきているか知っていますか？ 船や飛行機、トラックなどにのせられて、海や山をこえて運ばれてきます。今回は中央アメリカ（中米）パナマにある、「パナマ運河」を紹介しましょう。

今月のテーマ
中南米を探検！

1時間目	ボリビアのお話
2時間目	ブラジルに渡った日本人
3時間目	バイオディーゼルのって何？
4時間目	パナマ運河のお話

二つの海をつなぐ人工の河

北アメリカと南アメリカ、二つの大陸の間の細長い陸地が中央アメリカ（中米）です。その南の端にパナマという国があります。

パナマには、国のまん中に太平洋とカリブ海をつなぐ「パナマ運河」が通っています。長さ八十キロ、幅百九十二メートルの巨大な運河です。運河とは、物や人を運ぶ船が通れるようにつくられた人工の河のことです。

運河を守る森林の役割

「パナマで木を切ると、運河が使えなくなる」と現地の人には言いますが、それはなぜでしょうか？

実はパナマ運河は、平らな水面が二つの海をつないでいるのではなく、途中、高い場所を通るために、約二十六メートルも船を上げ下げしているのです。運河にはいくつも階段のように水門があり、水をためて船を上下させます。水門にそそく水を確保するために、川をせき止めてガソン湖をつくりました。

湖の水を大量に使うので、この地域の森林が大事なのです。森に雨が降ると水は地面にしみこみ、ゆっくり川に流れ出すため、一年を通じて水の量はあまり変わりません。でも、木をたくさん切ってしまうと、地面に水をたくわえられなくなってしまいます。雨の少ない季節に湖の水が足りなくなり、船が動かせなくなります。

運河が使えなくなると、たくさんの品物を輸出入する日本も困ってしまいます。パナマの人々が森林を上手に管理できるように、日本が協力したこともあります。

もうすぐ百歳になるよ

パナマ運河が完成したのは、一九一四年。もうすぐ百年になります。運河がパンクするほど多くの船が通り、通れる船の大きさも長さ二百九十四メートル、幅三十二メートルとかぎりがあります。もっと大きな船も通れる「第三レーン」が二〇一四年に完成予定です。これからもパナマ運河は、たくさんの荷物を運んでくれるでしょう。



水門で水位を上げ下げして船を通します

探してみよう

下の地図のパナマに色をぬりましょう。

パナマ

人口 317万
首都 パナマ市
言語 スペイン語
面積 7万5517平方キロ
(北海道より小さい)



クイズ

- Q 1 パナマ運河には1年間におよそどのくらいの船が行き来するでしょう？
①130隻 ②1300隻 ③1万3000隻
- Q 2 パナマ運河では、1年間でおよそどのくらいの量の荷物が運ばれるでしょう？
①1億トン ②2億トン ③10億トン
- Q 3 パナマ運河では1つの船を通すのに湖の水をどのくらい使うでしょう？
①2000トン ②2万トン ③20万トン

◎ ① ◎ ② ◎ ③ ◎ ④ ◎ ⑤ ◎ ⑥ ◎ ⑦ ◎ ⑧ ◎ ⑨ ◎ ⑩ ◎ ⑪ ◎ ⑫ ◎ ⑬ ◎ ⑭ ◎ ⑮ ◎ ⑯ ◎ ⑰ ◎ ⑱ ◎ ⑲ ◎ ⑳ ◎ ㉑ ◎ ㉒ ◎ ㉓ ◎ ㉔ ◎ ㉕ ◎ ㉖ ◎ ㉗ ◎ ㉘ ◎ ㉙ ◎ ㉚ ◎ ㉛ ◎ ㉜ ◎ ㉝ ◎ ㉞ ◎ ㉟ ◎ ㊱ ◎ ㊲ ◎ ㊳ ◎ ㊴ ◎ ㊵ ◎ ㊶ ◎ ㊷ ◎ ㊸ ◎ ㊹ ◎ ㊺ ◎ ㊻ ◎ ㊼ ◎ ㊽ ◎ ㊾ ◎ ㊿ ◎ ㉿ ◎ ㊿



太平洋とカリブ海をつなぐパナマ運河



中南米の生き物③ ガラパゴス諸島の動物たち

ガラパゴス諸島は、南米エクアドルの西約千キロ、赤道直下の太平洋上にうかがふ火山の島々です。一五三五年にスペイン人が発見するまで、ほかの世界とはなれていたので、動植物は独特でめずらしい進化をとげました。

リクイグアナは、体が大きくいかめしい外見で、なんとサボテンも食べてしまいます。また、熱帯地域に唯一生息するガラパゴスペンギンもいます。

諸島の名前になっている「ガラパゴ」とは、スペイン語で「ゾウガメ」の意味です。ゾウガメのほか、アシカやオットセイなどもくらし、鳥類の宝庫としても知られます。

一九七八年に世界自然遺産に登録されました。ところが、急激に増えた観光客が外から動物や植物を持ち込み、ガラパゴス諸島固有の動植物をおびやかすなどの問題が起きています。二〇〇七年六月、緊急の保全が必要な「危機遺産」リストにも加えられました。

アジアと日本のつながり

世界遺産を探そう！

アジアにはたくさんの国々があります。日本も、その一員。今月は日本とアジアのつながりを見てみましょう。一回目は、ベトナム、カンボジアなどメコン川流域の国々のようすを世界遺産を通して紹介します。

今月のテーマ

アジアと日本のつながり

1時間目	世界遺産を探そう！
2時間目	アジアを旅する渡り鳥
3時間目	鳥インフルエンザって？
4時間目	「海の道」のお話

ラオス ルアンプラバン

ラオス中部にある古都。1975年まで王家がありラオスを支配していました。仏教の寺院がならぶ静かな都市ですが、95年に世界遺産になると多くの観光客がおとずれるようになりました。

ベトナム ホイアン

ベトナム中部にあるホイアンは、16世紀末ごろから国際貿易の港として栄えた町です。当時は、日本人街もあって多くの日本人も住んでいたようです。町の中心にある日本橋は、今も使われています。

カンボジア アンコール遺跡群

9世紀から15世紀にかけて栄えたアンコール王朝によってつくられた仏教、ヒンドゥー教の寺院を始めとする巨大な遺跡群です。カンボジア北西部シムリアップという町の周辺に広がる広大な遺跡です。

町には空港、道路、ホテルなどができ、日本を始め世界各国からたくさんの観光客がおとずれます。遺跡は風雨にさらされてこわれかけるなどして、修復がすすめられています。

タイ アユタヤ

タイのアユタヤは、14世紀から18世紀にかけてアユタヤ王朝の首都として栄えた町です。徳川家康の時代には、日本人町もあったそうです。18世紀にビルマ（ミャンマー）との戦争で破壊されましたが、日本を始め各国の協力で修復されています。

調べてみよう！
今回紹介したベトナム、カンボジア、ラオス、タイ、ミャンマーの五か国と、中国の雲南省は「メコン地域」と呼ばれ、おたがいに協力しあって経済的に発展していこうと計画しています。この地域には、今回紹介した四つのほかにも世界遺産があるよ。どんな世界遺産があるか調べてみましょう。



もっと知りたい！



国を結び、人や物を運ぶ道路と橋

世界には日本とちがって、陸上で国境を接している国が多くあります。こうした地域ではほかの国に行くのには飛行機や船のほかには道路が重要です。

今回とりあげたメコン地域の国々も川などが国境になっています。この地域では今、国と国を結ぶ道路をつくって、人や物の行き来をふやしおたがいに発展していこうという大きな計画があります。



上の写真は、タイとラオスの間を流れるメコン川にかかる橋です。二〇〇六年十二月に完成しました。日本とタイとラオスが協力してつくった橋です。

写真をよく見てみると、橋の向こう側で道路が交差していることがわかります。ラオスでは車は道路の右側を走りますが、タイでは日本と同じように左側を走ります。だからラオスからタイに入るときに車が左側を走るように工夫されているのです。

文化も風習も国によってちがいますが、道路などによってちがう国の人々が交流し、地域全体が発展する可能性が生まれているのです。

にほん アジアと日本のつながり

アジアを旅する渡り鳥

アジアの国々と日本の深い結びつきを紹介するシリーズの二回目。今回は、国境を越えて旅する渡り鳥から、環境面でのつながりを考えてみましょう。春になると、軒先などに巣を作りヒナを育てるツバメ。秋になると、いつの間にかいなくなってしまいます。いったいどこへ行くのでしょうか？

今月のテーマ

アジアと日本のつながり

1時間目	世界遺産を探そう！
2時間目	アジアを旅する渡り鳥
3時間目	鳥インフルエンザって？
4時間目	「海の道」のお話

やって来たのはボルネオ島

日本を飛び立ったツバメの旅先の一つが、東南アジアのボルネオ島。日本の約二倍の広さの島で、マレーシア、ブルネイ、インドネシアの三か国にわかれています。

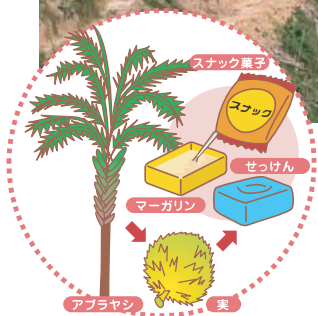
日本が寒い冬の間、ツバメはあたたかいボルネオ島で過ごし、春になるとふたたび日本へやってくるのです。

減り続けるジャングル

下の写真を見てください。ボルネオ島のマレーシア側で木が切られ、むきだしの地面がのぞいています。昔ボルネオは一面ジャングルでしたが、外国に材木を売るために木を切り出し、その後にはアブラヤシ(左下イラスト参照)が植えられました。

アブラヤシの実からしぼった油は、マーガリンやスナック菓子、せっけんなど、わたしたちの身近な品々にたくさん使われています。

切り開かれるボルネオのジャングル



国をこえて影響が

森が減ると虫がいなくなり、それを食べるツバメも生きられませぬ。ゾウやオランウータンもすむところがなくなります。雨が降れば土砂や農薬が川に流れ、よごれた川では魚が減り、漁師さんも生活できなくなります。

アジアの国々をツバメが飛来するには、日本やボルネオだけでなくすべての国々の環境が大切です。アジアのみんなが協力して、きれいな空気と水、豊かな森を守ることが必要なのです。



しらべてみよう

- ① ツバメのほかに、日本ではどんな渡り鳥が見られるかな？ どこから来て、どこへ行くのかな？
- ② アジアの国々では、どんな環境問題があるのかな？ 日本とのかかわりはあるのかな？

もっと知りたい!



住民たちと共に守るボルネオの自然

ボルネオの自然を守るため、JICAは現地の役所の人、大学の先生、村人たちと協力して、さまざまな活動をしています。環境をこわさないような経済の発展を目指しています。

例えば、自然に親しむ旅行の提案も取り組みの一つ。訓練を受けた村人たちが案内役となり、観光客にボルネオの自然や文化を体験してもらうことで、木を切らなくても地元にお金が入るようになりました。

また、村人たちはどこでどんな動植物を見たのか役所に伝え、役所や大学は調査を行い、自然を守るための計画を立てています。アブラヤシ農園の会社も、動物がくらす川沿いの森は保存するなどして協力しています。

アジアと日本のつながり

鳥インフルエンザって？

インフルエンザが流行中です。みなさんの中にもインフルエンザにかかったり、学級閉鎖で学校がお休みになったりした人がいるのではないのでしょうか。今回は、インフルエンザからアジアと日本のつながりを見ていきましょう。

今月のテーマ

アジアと日本のつながり

1時間目	世界遺産を探そう!
2時間目	アジアを旅する渡り鳥
3時間目	鳥インフルエンザって？
4時間目	「海の道」のお話

鳥がかかる病気 世界に広がる

人間がかかるのは「ヒトインフルエンザ」ですが、ここ数年、鳥がかかる「鳥インフルエンザ」が大きなニュースになっていますね。二〇〇三年にアジアの国々で発生し、ヨーロッパなどにも広がっています。

日本でも二〇〇四年に山口県、大分県、京都府にある農場で鳥インフルエンザにかかったニワトリが見つかりました。日本では七十九年ぶりの発生でした。ウイルスが広がるのを防ぐために、たくさんのニワトリが処分されました。

ウイルスは渡り鳥が運んできたとも考えられていますが、はっきりとした原因は分かっていません。

心配なのはウイルスの変化

鳥インフルエンザのウイルスは、まれに人にうつることがあります。ベトナムやインドネシアを中心に患者が増え、トルコやエジプトなどをふくめると世界では二百人以上が亡くなっています（地図参照）。

今、心配されているのは、鳥インフルエンザのウイルスが人から人へうつる新型のウイルスに姿を変えることです（イラスト参照）。新しいウイルスなのでだれも免疫（病気のもと）をやっつける体の働きがなく、大流行することが心配されています。

アジアの国で専門家を育てる

アジアの国々の中には、鳥にうつるインフルエンザのワクチンの対策がおくれている国もあります。また、鳥の病気の診断やウイルスの検査を行う専門家が足りない国もあります。

もしこうした国で、人にうつる新型インフルエンザが発生すると、あっという間に世界じゅうに広がるおそれがあります。一つの国だけでなく、世界の国々が協力して解決しなくてはならない問題なのです。

JICAは、日本からインドネシアに専門家をおくり鳥インフルエンザ用のワクチンの研究を援助しています。また、ベトナムやカンボジアなどの人たちが鳥の病気を診断できるように協力しています。ベトナムでは、人にうつる新型インフルエンザに変化したかどうかをチェックできるように、ウイルスの検査で協力しています。

こうした協力が、アジア、世界の国々の鳥インフルエンザ対策につながっています。



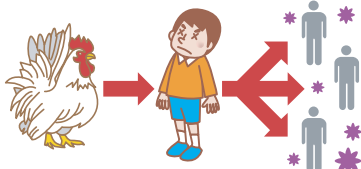
鳥インフルエンザ(現在)

●まれに鳥から人へうつる



心配される新型インフルエンザ

●人から人へうつり流行する



アジアと日本のつながり

海の道のお話

今回旅する国は、東南アジアの真ん中に位置するマレーシアとシンガポール。ここは世界でもっとも多く船が行き交う場所で、みなさんの身の回りのものがたくさんこの「海の道」を運んで日本にやってきます。でも、この海域には海賊もいて、日本の船もおそわれるなどしています。今回は、この場所で今問題になっている交通渋滞と海賊の問題を見ていきましょう。

今月のテーマ

アジアと日本のつながり

1時間目	世界遺産を探そう!
2時間目	アジアを旅する濃り鳥
3時間目	鳥インフルエンザって?
4時間目	「海の道」のお話

海の交通渋滞 海賊も現れる

マレーシアとシンガポールの近くには、マラッカ海峡とシンガポール海峡という二つの海峡があります。ここを通る船は、年間約九万四千隻。世界一船でこみ合っている海峡で、また今後もっとこんでいくと予想されます。

海でも交通ルールをきちんと守らないと、船どうしの事故が起きやすくなります。日本でも、漁船がイースス艦にぶつけれられる悲しい事故が起きたばかりです。

混雑した海では、船はゆっくりしかありません。こうした船をねらって、海賊による誘拐や強盗事件が起こっています。海賊による被害の発生率も世界一の場所なのです。

「海の道」のまわりの国々には、まずしいくらしをしている人がたくさんいて、生活に困って海賊になる人もいます。

日本や中国に物を運ぶ

この海峡は、昔から「海の道」として知られていました。日本や韓国、最近では中国にの経済が発展して、いろいろな物を遠い中東やアフリカからたくさん買うようになり、それを運ぶ船は、ますます大いそがしです。

もし事故が起こって「海の道」がふさがると、物が届かなくなって、日本だけではなく、東アジアの国々はみんな大変なことになります。

渋滞の解消に日本人も協力

海の交通渋滞を少しでもよくするために、日本では民間の会社がお金を出して、マラッカ・シンガポール海峡に海の交通信号を設置したり、修理したりしています。

また、最近では、日本の政府も、二つの海峡の交通渋滞をよくし、海賊をとりしめる警察の訓練などを行っています。



海の安全を守る船と人々



「陸の道」も人間の生活には欠かせない

「海の道」の次は「陸の道」のお話です。道があることは、みなさんにとっては普通のことかもしれませんが、世界には道路が整備されていない国もたくさんあります。「学校に通える」「病院に行ける」「農作物を市場に運んで売ることができる」といったことができるのも、道があればこそ。そこに住む人たちの未来への選択肢を増やすことにつながるのです。

青年海外協力隊としてアジアのスリランカでボランティアをしていた永広あかねさん。住んでいた地域の道路は整備されておらず、村の中を歩くだけでも大変だったそうです。

二〇〇四年にインドネシアのスマトラ沖で地震があったときには、道路に落ちたがれきを拾う活動をしました(写真)。「人々が生活していくのに、道路がどれだけ必要かを痛感した」と永広さんは言います。



世界のためにできること

世界に向ける目

今月のテーマは、「世界のためにできること」。一回目は、人や文化の「ちがい」について。日本語を話す人って世界にどのくらいいるのでしょうか？主食がお米でない国では何を食べているの？ほかの国ではどんな遊びがはやっているの？自分とはちがう世界を知って、なんだかおもしろそうですね。

今月のテーマ 世界のためにできること

1時間目	世界に向ける目
2時間目	NGOって何？
3時間目	クラスの中を見てみると
4時間目	がんばる日本人

きれいな、活いもそれぞれ

例えばトイレ。トイレトーパーを使わず、水を使って手で流す人は世界中におおぜいいます。手を使うなんて「きたない」？でも紙しか使わない方が「きたない」と思われているかもしれません。何をきれいと感じるかは、習慣や考え方によってちがうのです。

学校に行くということ

これまでで紹介してきたように、世界には、学校に行きたくても行けない子どもたちがたくさんいます。近くに学校がなかったり、働かなくてはならなかったり、弟や妹の世話をしたりするためです。日本では学校に行くことはあたり前のことですが、そうではないところもあるのです。

「ちがい」を理解しよう

日本国内でも、地域によって気候がちがったり、方言があったり、その土地ならではの食べ物があつたりします。日本の中でもちがいはたくさんあるのですから、世界各地でいろいろな生活や考え方があるのはおどろくことではありませんね。

わたしたちの食べ物も洋服も使っている道具も、すべてが世界とつながっています。「ちがい」を知ること、どうしてちがうのかを理解することは、これから世界のいろいろな人と出会い、仲間となって仕事をし、いっしょに暮らしていくのにとっても大切なことです。

「ちがい」を理解することによって自分の考え方が広がったり、問題の解決に役立ったりします。「ちがい」は困ること、こわいことではなく、自分や他人をみとめるために大切なことなのです。



「ちがい」を理解するにちが、国際協力
の第一歩！トンガで水とトイレを
提供するボランティアのみなさん



ドイツ語きっかけに世界に興味を

国際理解教育を広める

長谷川雅之さん (青年海外協力協会)



プロフィール

1972年、福岡県生まれ。2000年～02年まで青年海外協力隊としてボリビアで活動。現在は、海外での経験や知識をそなえた元協力隊員たちが日本で国際交流、国際協力を行う「青年海外協力協会 (JOCA)」で仕事をしています (2008年3月現在)

わたしが世界に興味を持ったのは、小学五年生のとき。先生がある日、黒板に「Ichliebedich」って書いたんです。何のことがわかりますか？ドイツ語で「愛してる」。当時はまったく意味がわかりませんでした。が、「身近に外国語を話す人がいる！自分の知らない世界が広がっているんだ！」と実感しました。

この経験や、自分を育ててくれた社会に恩返しをしたいという思いから、二十代のときに青年海外協力隊として南アメリカのボリビアに行きました。孤児院の子どもたちとスポーツをしたり、図工や英語を教えたり、キャンプの計画をしたり。いろいろな悩みをかかえていても陽気で明るく生きている子どもたちと過ごした日々は、とても楽しかったです。今ボリビアに帰りたいです。

わたしは今、日本人たちが世界のことを知ることができるよう、国際理解教育を広める仕事をしています。学校に行ってボリビアの話をしたり、先生たちに国際理解教育について伝えたりしています。

以前、ある高校でボリビアの話をしたら、数年後にその生徒が「将来、青年海外協力隊になりたいです」と話してくれたことがあります。この仕事をしていたよかったなあと思いました。

わたしたち一人ひとりが途上国や世界のこと、自分たちのまわりにいる人のことを知ること、いつか世界は平和になると思っています。わたしの仕事で一人でも多くの方が「世界を知るきっかけ」をつかんでくれたらうれしいですね。

世界のためにできること

エヌジーオー なに NGOって何？

これまで、わたしたちが住む地球、なかでも途上国には人々が生きていくさまたげとなるさまざまな問題があることを学びました。今回は、そのような問題を解決しようと現地で活動しているNGO（非政府組織）と呼ばれる団体について紹介します。

今月のテーマ 世界のためにできること

1時間目	世界に向ける目
2時間目	エヌジーオー なに NGOって何？
3時間目	クラスの中を見てみると
4時間目	がんばる日本人

国際協力は二つあるよ

国際協力は、大きく二つに分けられます。一つは政府が行う活動で、ODA（政府の途上国援助）と呼ばれるもの。JICAは、日本のODAを行う機関です。もう一つは、民間の人たちによるNGOの活動です。

地域の人々とともに考える

NGOは、団体の考えや方針によって活動する国や地域、取り組む内容を自主的に決めます。活動の多くは会費や寄付など、その団体の考えに賛成する人々からの応援によって支えられています。

現地の人々と同じ生活をしながら仲良くなり、協力して活動を進めるのもNGOの特徴です。

?クイズ

NGOが得意な仕事って何？

例えば、途上国のある地域の子どもたちが学校に通って勉強するお手伝いをするようになったとします。資金も技術も人材も豊富なODAは、相手の国の希望にそって、国に共通の教材や教え方を考えたり、学校の建物や黒板、机やイスなどを準備したりするのは得意です。

それに対して、教室で授業を行う先生を地域の人のなかから育てたり、また子どもたちにふさわしい教材を準備したりするのは、地域に根ざしたNGOの方が得意です。

このように二つのグループは、組織の性格や規模のちがいがから、得意な仕事と苦手な仕事を持っています。苦手な仕事はカバーしあって、得意な仕事をのばす。こうした協力関係も、途上国で困っている人たちが少しでもくらしやすい状況をつくるのに大切なことなのです。

NGOは、英語のNon-Governmental Organization（ノン・ガバメンタル・オーガニゼーション）の頭文字、ODAは、Official Development Assistance（オフィシャル・デベロップメント・アシスタンス）の頭文字をとった言葉です。

先生を地域の中から育てるのもNGOの大切な仕事。バングラデシュで、JICA地球ひろばの山崎唯司さん撮影



◎ 世界のよとろ



「子どもを助きたい」思い通じた

ネパールの母と子に栄養を

吉田 希さん（チャイルド・ファンド・ジャパン）

わたしは、NGOでネパールの女性や子どもたちが栄養のある食べ物を食べられるようにサポートする活動をしています。五歳未満の子どもの半数が栄養不足といわれるネパール。地元で手に入る作物を上手に使う健康を守る大切さを伝えていきます。

わたしが国際協力にかかわったきっかけは、大学生のときに参加したインドのスタディーツアーです。

わたしは当時、とてもつらい悩みをかかえていて、どんなことに対しても幸せを感じられない状態でした。でも、インドのマザー・テレサがつくった孤児院で子どもたちの笑顔にふれ、「幸せっていろいろな形があって、自分の受け止め方次第なのだ」と気づいたのです。



プロフィール 北海道釧路市生まれ。北海道の管理栄養士として、栄養相談などを行う。現在は、チャイルド・ファンド・ジャパンのプロジェクトマネージャーとして、ネパールで働く。チャイルド・ファンド・ジャパンは、事業種別はがきを登録して得たお金で、ネパールやフィリピンの子どもの生活改善を行っています。ウェブサイトを、www.chfnd.org.jp/ 写真後者が吉田さん。(2008年3月現在)

今の仕事をして一番印象に残っているのは、ネパールの奥地で重度の栄養不足の子どもに出会ったときのこと。子どものお母さんはその土地の言葉しか話せなかったので、コミュニケーションをとるのが大変でした。また、お母さんは家事や畑仕事などで忙しく、子どもを連れて首都の病院に行くのを夫がゆるさないといのです。

毎週その家をたずね、根気強く説得を続けました。最後には「外国人なのに自分の子どもを心配している人がいる」と彼らの心が動いたのか、無事病院に連れて行くことができました。今、その子は元気に生活しています。

このようなNGOの活動を知ることも、国際協力の第一歩。書き損じはがきを送るだけでも協力できるので、家族といっしょに調べてみてくださいね。



ネパールの赤ちゃんの体重測定のようす

世界のためにできること

クラスの中を見てみると

今、日本には、世界中の人々が来て、暮らしています。そして日本の学校で学ぶ外国から来た子どもがたくさんいます。今週は、いろいろな国から来た人たちが、一つの場所でなかよく暮らすことについて考えてみましょう。

今月のテーマ 世界のためにできること	
1時間目	世界に向ける目
2時間目	NGOって何?
3時間目	クラスの中を見てみると
4時間目	がんばる日本人

世界の人々が日本で働く

日本には多くの外国籍の人々が暮らしています。その数、約二百万人（二〇〇五年）。韓国、中国籍の人が多く、ブラジル、フィリピン、ペルーと続きます。

東京、大阪といった大都市だけではありません。例えば大きな工場がある群馬県太田市や大泉町、静岡県浜松市などで働いている外国人もたくさんいます。

新しい言葉を覚えるって大変

日本に来てまもない外国の人たちにとって、言葉や文化がちがう環境で生活するのはかんたんではありません。韓国語、中国語、スペイン語、ポルトガル語といった言葉を自分の言語とする外国の人にとって、日本語を覚えるのは大変なことでしょう。

もしかしたら、みなさんのクラスにも、一生けんめい日本語を勉強している外国から来た人たちもいるかもしれませんね。

地域の人々とともに考える

異なったいろいろな習慣や言葉を持つ人々が、一つの地域でいっしょに暮らすことを「多文化共生」といいます。一つの地域の中でいろいろな文化を持つ人たちがなかよくすることは、もっとたくさんの言葉、文化がある地球を住みよくするためにとても大事なことです。

たとえクラスに外国から来た友だちがいなくても、クラスメートは一人、ひとり性格も顔も考え方もちがいますよね。そんなみんなと、どうしたらもっとなかよくなれるかを考えてください。

みなさんの教室も「地球の教室」なのです。



山形県村山市で世界の人々が雪かきボランティア＝今村健志朗さん(JICA) 写す



世界の人と幼い頃からともに生活

マレーシアで感じたごみ問題 川崎康太くん（兵庫県神戸市歌敷山中二年）



川崎くん マレーシアで現地の子とあそぶ様子

今週は、「JICA国際協力中学生エッセイコンテスト2006」で外務大臣奨励賞を受賞した川崎康太くん（兵庫県神戸市歌敷山中二年）のお話を聞いてみましょう。

ぼくの家には、ぼくが小さいころからたくさんの外国人にホームステイとして泊まりに来てもらっています。最初に来たのは、タイの人。いっしょにタイ料理を食べたことをよく覚えています。その後もいろいろな国の人々が来て、いっしょに生活しながら、英語を使って交流しました。今も英語の勉強が大好きです。

また、コンテストの副賞としてマレーシアに行きました。一番印象に残っていることは、ごみ問題です。マレーシアはペットボトルなどを分別していないのでリサイクルができず、そのまま埋め立て地に持っていかれます（下の写真）。

現地で青年海外協力隊としてボランティアをしている日本人に会い、「日本も昔は、マレーシアのようにごみが分別されていなかった。このような場所は今の日本にもあるかもしれない」と聞いて、人ごとでない気がしました。今は、通っている学校で紙ごみをリサイクルに出したり、ゴミを捨てる時は水を切ってから捨てたりするようにしています。

マレーシアでは、気さくにあいさつしてくれる人たちにたくさん出会いました。子どもたちも、小さいころから英語やむずかしい算数などを一生けんめい勉強していて、自分もがんばらなければと刺激をもらいました。

いつかまた外国に行って、もし困っている人がいたら助けることができればいいなと思っています。



国際協力

世界のためにできること

がんばる日本人

「集まれ! 地球の教室」では、世界のこと、世界と日本のつながりについて学んできました。今月は、世界のために働いている日本人の人たちを紹介してきましたが、最終回は途上国支援をするJICAで仕事をする人たちの話を聞いてみましょう。

今月のテーマ 世界のためにできること	
1時間目	世界に向ける目
2時間目	NGOって何?
3時間目	クラスの中を見てみると
4時間目	がんばる日本人

増古恵都子さん (ケニア事務所)

わたしはアフリカ・ケニアの農村で、農作物を育てたり、畑に水を引いたりして、農業をよりよくするための協力をしています。

アフリカでは農業にたよって生活している人が多く、将来、温暖化などで水不足や砂漠化が深刻になると、作物が育たなくなるなどの被害が心配されています。

環境と人の生活、どちらも守るために、どのように自然を利用していけばいいのかを考えることは、わたしの一生の課題です。

みなさんも、世界で起こっていることを学ぶとともに、身近なことで今自分に何ができるかを考えてみてください。

藤野浩次郎さん (農村開発部)

わたしはJICAに入ってから青年海外協力隊員として西アフリカ・セネガルの農村で働きました。今は途上国の農業支援を支えるために、日本でお金の管理などをする仕事をしています。

好きな言葉は「ジャム・レック」。セネガルの言葉で、「平和のみ」という意味。あいさつなどに使われ、平和を愛するセネガルの人々を表す大好きな言葉です。

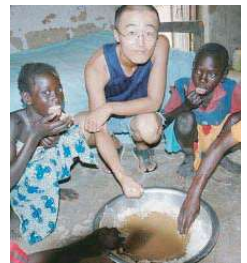
徳田真人さん (JICA中国)

わたしは、中国地方の広島にある国内センターで働いています。途上国の人々に日本に来てもらい、彼らの国の発展に必要な知識や技術を学んでもらう仕事を担当しています。研修内容は、農業、保健医療、パソコンの知識などです。

仕事の魅力は、さまざまな国の人に出会い、途上国と日本をつなぐことができること。みんなが世界中に友だちをつくれれば、きっと戦争はなくなるはずです。みなさんも友だちをたくさんつくて、大切にしてくださいね。



増古恵都子さん (中央)



藤野浩次郎さん (中央)



徳田真人さん (右はし)

世界にはさまざまな国があり、いろいろな人が暮らしています。わたしたちもその一員。これからの世界をつくるみなさんが、いろいろなことに興味を持ち、自分の世界を広げていってくれたらと願っています。



身近なことから世界に関心を

アフリカの子の写真展を企画

堀越京子さん (国際協力推進員)

「国際協力」と聞くと、海外での活動を思い浮かべませんか? 実は日本国内にも国際協力にかかわる人がたくさんいるんですよ。その一つがわたしたち「国際協力推進員」です。

わたしは中央アメリカのジャマイカという国で青年海外協力隊員として活動し、帰国後は、生まれ育った群馬県で推進員になりました。わたしのように海外で活動した経験のある人が全国の都道府県で働いています。

主な仕事として、国際協力をやってみたいという人の相談にのったり、地域の小学校で、ジャマイカでの体験を話したり、役所の人たちと途上国支援の相談をしたりします。

先日、仕事でアフリカのブルキナファソへ行き、現地の小学六年生にカメラをわたして写真を撮影してもらいました。今は日本でその写真展を開くことを計画しています。写真をきっかけに外国に住む人々や、世界で起きているさまざまな問題に関心を持ってくれる人が増えたらいいなあと考えています。

身近なことから世界に関心を持ってもらうための活動を、ふるさとの群馬でできることによるこびを感じながら仕事をする毎日です。



1974年、群馬県生まれ。2001年～03年、青年海外協力隊員として中央アメリカのジャマイカで、森の大切さや環境保護を子どもたちに伝える仕事にたずさわる。帰国後、国際協力推進員に。国際協力推進員は、JICAの仕事の内容を紹介したり、都道府県が行う国際協力を助けたりのが主な仕事=写真は、小学校で体験を話す堀越さん (中央)

JICA地球ひろば

JICA地球ひろばには、世界の人々の暮らしや直面している課題を知ることができる「体験ゾーン」、国際協力活動を紹介する展示やセミナー、各種イベントに市民団体などが活用いただける「交流ゾーン」などの施設があります。

「食を通して世界を知ろう」をコンセプトにしたカフェ・フロンティアでは、フェアトレード商品の販売も行っておりますので、目的に合わせてご利用いただけます。



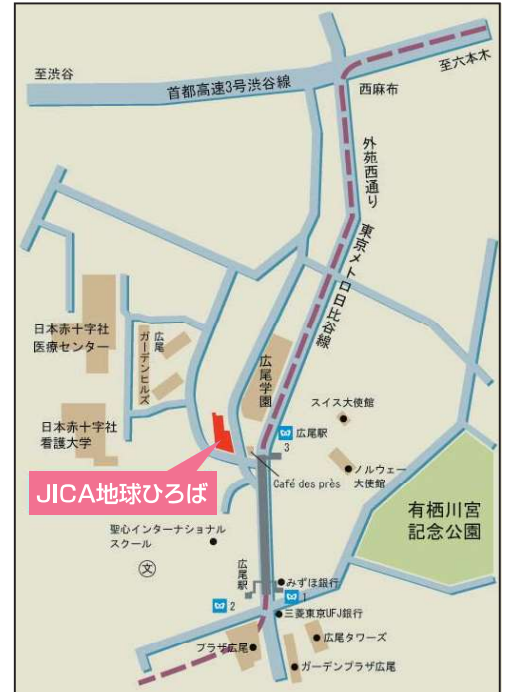
開館時間: 10:00~20:00

(土日祝18:00まで)

月曜休館

☎0120-767-278

メールアドレス chikyuhiroba@jica.go.jp



【交通案内】東京外口日比谷線 広尾駅下車(3番出口)徒歩1分

開発教育・国際理解教育支援事業のご紹介

JICAは、開発途上国と日本の市民の「架け橋」となるため、開発教育・国際理解教育の支援を行っています。



国際協力出前講座

開発途上国の実情や、日本との関係、国際協力を知っていただくため、JICA職員やボランティア経験者等を講師として学校等へ派遣し、開発教育・国際理解教育に役立てていただいています。

施設訪問の受入

生徒等の皆様をJICA国内機関にお迎えし、施設案内や出前講座と同様の講座等を実施しています。

中学生・高校生エッセイコンテスト

国際社会の中で自分たちがどう行動すべきかについて考えてもらうことを目的として、国際協力をテーマにしたエッセイコンテストを実施しております。

教師海外研修

国際理解教育・開発教育に興味のある学校の先生を対象に、10日間ほど開発途上国で研修を行い、その経験をもとにした授業の報告会を含むプログラムです。

JICAの窓口

本部
〒102-8012 東京都千代田区二番町5-25
二番町センタービル
TEL:03-5226-6660 (代表)

JICA研究所
〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町10-5
TEL:03-3269-2911(代表) FAX:03-3269-2054
1階に国際協力に関連する資料をそろえたJICA図書館を併設。

●国内拠点 (17カ所)

① JICA札幌
〒003-0026 北海道札幌市白石区本通16丁目南4-25
TEL:011-866-8333(代表) FAX:011-866-8382

② JICA帯広
〒080-2470 北海道帯広市西20条南6丁目1-2
TEL:0155-35-1210(代表) FAX:0155-35-1250

③ JICA東北
〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町4-6-1
仙台第一生命タワービル15階
TEL:022-223-5151(代表) FAX:022-227-3090

④ JICA二本松
〒964-8558 福島県二本松市永田字長坂4-2
TEL:0243-24-3200(代表) FAX:0243-24-3214

⑤ JICA筑波
〒305-0074 茨城県つくば市高野台3-6
TEL:029-838-1111(代表) FAX:029-838-1119

⑥ JICA東京
〒151-0066 東京都渋谷区西原2-49-5
TEL:03-3485-7051(代表) FAX:03-3485-7904

⑦ JICA地球ひろば
〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-2-24
TEL:03-3400-7717 (代表) FAX:03-3400-7394
市民の国際協力への関心と理解を深め、参加を促進することを目的とする市民参加型の施設。さまざまなテーマの展示やセミナーを行っている。1階に途上国の料理を味わえる「カフェフロンティア」を併設。

⑧ JICA横浜
〒231-0001 神奈川県横浜市中区新港2-3-1
TEL:045-663-3251(代表) FAX:045-663-3265
日本人の海外移住の歴史を伝える海外移住資料館を併設。

⑨ JICA駒ヶ根
〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂15
TEL:0265-82-6151(代表) FAX:0265-82-5336

⑩ JICA北陸
〒920-0853 石川県金沢市本町1-5-2 リファール(オフィス棟)4階
TEL:076-233-5931(代表) FAX:076-233-5959

⑪ JICA中部(なごや地球ひろば)
〒453-0872 愛知県名古屋市中村区平地町4-60-7
TEL:052-533-0220(代表) FAX:052-564-3751
2009年6月、展示やセミナー、イベントを通じ、国際協力について楽しく学ぶことができる市民参加型施設「なごや地球ひろば」をオープン。途上国の料理を味わえる「カフェ・クロスロード」やフェアトレードショップを併設。

⑫ JICA大阪
〒567-0058 大阪府茨木市西豊川町25-1
TEL:072-641-6900(代表) FAX:072-641-6910

⑬ JICA兵庫
〒651-0073 兵庫県神戸市中央区臨海通1-5-2
TEL:078-261-0341(代表) FAX:078-261-0342

⑭ JICA中国
〒739-0046 広島県東広島市鏡山3-3-1
TEL:082-421-6300(代表) FAX:082-420-8082

⑮ JICA四国
〒760-0050 香川県高松市亀井町5-1 百十四ビル13階
TEL:087-833-0901(代表) FAX:087-837-0747

⑯ JICA九州
〒805-8505 福岡県北九州市八幡東区平野2-2-1
TEL:093-671-6311(代表) FAX:093-663-1350

⑰ JICA沖縄
〒901-2552 沖縄県浦添市字前田1143-1
TEL:098-876-6000(代表) FAX:098-876-6014



JICAのホームページ

- JICA メインページ <http://www.jica.go.jp/>
- JICA 地球ひろば <http://www.jica.go.jp/hiroba/>
- 開発教育支援事業 <http://www.jica.go.jp/hiroba/study/>
- NGO 等支援事業 <http://www.jica.go.jp/partner/ngo/>
- 草の根技術協力事業 <http://www.jica.go.jp/partner/kusanone/>
- JICA ボランティア <http://www.jica.go.jp/volunteer/>
- 国内機関 <http://www.jica.go.jp/about/structure/organization/domestic.html>
- 国際協力推進員※ <http://www.jica.go.jp/about/structure/organization/suishin/>

※自治体が実施する国際協力事業の活動拠点(全都道府県)に配置され、国際協力に関心のある市民とJICAを結ぶパイプ役。推進員の多くは青年海外協力隊経験者。



独立行政法人 国際協力機構

JICAの開発教育教材紹介

ぼくら地球調査隊



対象:小学生
媒体:ウェブコンテンツ
種類:全9回



博士と3人の子どもたちが世界を旅しながら地球のことを学ぶ、ウェブコンテンツです。アニメーションを見ながら、地球で起こっている様々なことを知り、途上国を身近に感じることが出来ます。

こんな内容があります!

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. 学校に行けない世界の子供たち | 6. 子どもの兵士 |
| 2. 緑の地球を守ろう! | 7. ゴミだらけの地球にしないために |
| 3. 笑顔で暮らせる世界に | 8. 地球温暖化 |
| 4. 水は命のもと!水がほしい | 9. 世界と食料 |
| 5. ジェンダー問題って何? | |

フォトランゲージキット

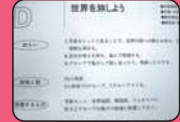


対象:小学生以上
媒体:写真キット
枚数:35枚+解説書



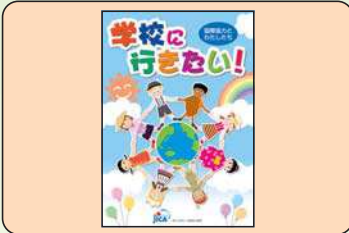
教員やNGOの方々と共に作成された7カ国の途上国の風土や生活をイキイキと表現した写真教材です。写真を見ながら考える「参加型学習」の教材として使えます。

こんな風に使えます!

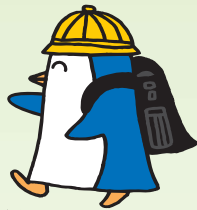


写真の選び方や使い方はさまざま!解説マニュアルも付いているので、学校や教育現場などいろいろなところでグループワークをすることができます。

学校に行きたい!



対象:小学生
媒体:B5版 冊子
枚数:24ページ



世界には学校に行けない子供が7200万人もいると言われています。世界の子どもたちのことを知り、国際協力について考えるきっかけとなる教材です。

こんな内容があります!



なぜ貧困は起こるの?国際協力はなぜ必要なの?など、小学生向けに分かりやすく解説しており、JICAについても学べる、総合的な基礎教材です。

壁新聞 育て!子どもたち



対象:小学生
媒体:B4版 冊子
枚数:12ページ



地球環境、感染症、教育、食料など、実は私たちの身近に迫っている地球規模の課題について、マンガを読みながら学ぶことができます。

こんな内容があります!



マンガなので読みやすい!博士と子どもたちの会話を楽しみながら、子どもたちのなぜ?なに?にお答えします。

編集元について

協力:朝日小学生新聞

本冊子は、2007年4月から2008年3月まで、朝日小学生新聞に掲載された記事を再編集したものです。

文・写真:独立行政法人 国際協力機構 (JICA)

本冊子を作成するにあたり、人間開発部、アフリカ部、地球環境部、中東欧州部、経済開発部、国際緊急援助隊事務局、農村開発部、アジア第二部、中南米部、アジア第一部、地球ひろば、また在外事務所や国内機関など、多くのJICAに関わる人が文や写真を提供しました。

企画:JICA人間開発部 神藤はるか 編纂:JICA地球ひろば 川合優子 文中イラスト:たなかさゆり

表紙・裏表紙イラスト:山内マズミ デザイン・印刷:株式会社 成光社